



今号から年1回発行の“フルカラー”になりました。紙面に掲載しきれない記事は市ホームページに掲載しています。



(「風」53号拡大版)



(過去のバックナンバー)



取材
取手市立六郷小学校
5年生
家庭科

人生100年? 120年? 私らしく生きるための道しるべ ライフプラン

人生100年時代から120年時代へと言われる中、私たちの人生には多様な選択肢が広がっています。どう生きるか、選ぶのは自分自身です。先が見えない時代だからこそ、自らの意思で人生を思い描き、生きる道を選択して行きたいものです。ライフプランは、かなえたい夢、思い描いた生活を実現するための道しるべ。何歳からでも遅くはありません。なりたい自分、やりたいこと、まずは理想の生活・人生を思い描いてみませんか? (下園)

全国どこの学校でも一定水準の教育が保てるように文部科学省が定めた教育課程(カリキュラム)が、「学習指導要領」です。子供たちの教科書や時間割はこれを基に作られています。今の学習指導要領では、「何を学ぶか」だけでなく、「どう学ぶか」も重視されています。「主体的・対話的で深い学び(アクティブ・ラーニング)」(2017年改訂の学習指導要領より)の視点を大切にしています。

実際の教室でどのような授業(金融教育)が行われているのか、報告します。(落合)

六郷小学校での授業

令和6年9月24日(火)取手市立六郷小学校(横田博江校長)での授業を参観しました。

5年1組担任の武藤俊先生と13人(男子10、女子3、当日欠席3)の児童が、「お金の使い方を考えよう」というテーマで授業に取り組みました。

「お金・時間とも無限にあるわけでない」「だからこそ、満足いく人生を送るためにはお金の使い方が大切」と板書します。そこで武藤先生が「日本で1番入園者が多い遊園地はどこ?」と問いかけます。

<お金の使い方計画、遊園地に行こう!>と課題を板書し、「5000円の予算で何を買うか、自分で考えてみよう」と展開します。

児童はそれぞれのタブレットに向かい、自分の買いたいお土産や食べたい食事の値段をホームページから検索し、予め上限5000円と設定された表に金額を入力していきます。児童からは「カチューシャの値段が高い」「5000円、すぐ超えそう」などの声があがります。

授業のポイント

児童が入力を終えたころ、「計画の中で大切にしたこと」「計画を立てて思ったこと」の2点の設問が提示されましたが、時間の都合上、宿題となりました。後日、提出された児童の意見(要約)は次のとおりです。

(裏面へつづく)

児童・保護者の意見

- ・ どうしたら自分と家族が一番楽しく喜ぶかを考えて計画を立てました。
- ・ 帽子だけでも 3000 円もするから考えるのが難しかったけど、これもいいな、と考えるのが楽しかったです。
- ・ ご飯が足りなかったらいやだけど、節約したいから量が多くても安いものを選びました。家族のお土産も一個はほしかったです。

また、保護者からも次の意見（抜粋）が寄せられました。

- ・ 限られた予算の中で、お金を使うことの難しさがわかるとてもいい学習になったと思います。普段から計画的にお金を使うことを意識させていきたいと思います。

授業の最後に「自分が幸せになるために、お金の使い方、買うもの、買わないもののバランスが大切だ」と結びました。

まとめ

授業終了後、校長先生、教頭先生、授業者の武藤先生との意見交換会が設けられました。

つづいて、
みずほ銀行にお邪魔して、
ライフプランについて
お話を伺いました。（下園）

取材

取手金融団
幹事行（取材時）
みずほ銀行
取手支店



個人担当部長の大高美穂さん（写真右）、道久真由さん（同左）は、ファイナンシャル・プランナーの資格を持ち、日々ライフプランのアドバイスなどをされています。

ライフプランの相談が増えている理由は？

Q. ライフプランに関する相談は増えているのでしょうか？

- A. かつて銀行は預金中心でしたが、1998 年から投資信託を、2002 年からは生命保険も扱えるようになりました。これらの規制改革に伴い、運用に関して幅広く相談を受けるようになりました。「老後 2000 万円問題」というのが話題になり、老後の具体的な備えに対する問い合わせが多くなりました。

今回、取材するにあたり身近な 30 代から 40 代の若い世代数人に話を聞いてみると、皆さんファイナンシャル・プランナーに相談した経験がありました。相談するきっかけはそれぞれで結婚、出産、転職などの時期に保険の掛け替えや学資貯金のこと、住宅ローンについてなどでした。その後もことあるごとに相談しているという人もいて身近な相談相手になっているようです。

ファイナンシャル・プランナーという肩書を目にするようになったのはさほど昔ではなく NPO 法人日本 FP 協会が資格認定試験制度を確立したのは 1990 年でしたが、わずかこの 30 数年で「2024 年武器になる資格ランキング」1 位^(※)になるほど世の中に認知されてきました。

(※) 出典：NPO 法人日本 FP 協会のホームページ「武器になる資格ランキング（株式会社ユーキャン調べ）」より

- * 今回の授業は家庭科「収支のバランス」の中で行なった。今回のお金の使い方を通して学んだことを修学旅行（鎌倉・箱根）への取り組みにつなげたい。
- * 限られた予算の中で有意義にお金を使うことの大切さが分かった。このことは大人も同一だ。

授業終了後、数名の児童に今日の授業の感想を聞いてみました。「楽しかった」「これからのお金の使い方に役立った」などと楽しそうに話していたのが印象的でした。（落合）

先生によると、子供たちは、物の値段を知らないのも、金銭感覚がまだ弱い。この値段なら買うのを止めようかななどと、慎重に考える習慣も次第に身につくようです。

将来の「人生ライフプラン」を設計していく過程の中で、お金の大切さについて、最初の取っ掛かりとなるお金の使い方を学校でシミュレーション体験しました。今後、お金の大切さについて、各家庭での実体験を通して、ますます金銭感覚が養われることでしょう。（糸井）



まずは現状把握から始めよう

Q. ライフプランについて相談する上でのアドバイスはありますか？

- A. まずは現状を把握することです。今どれくらい貯蓄があるのか、予定されているイベントにどれくらい費用がかかるのかを把握する。その上で、どうするのがベストなのかを考えていきます。

Q. ライフプランは自分だけで作れますか？

- A. 作れます。様々なサポートツールも出ています。たとえば、金融庁のホームページには質問に答えながら作成するツールがあります（※ライフプランシミュレーター）。当行でもお客さまの話を伺いながらタブレットを使って入力し、ご希望があれば出力してお渡しすることもできます。

ライフプランを作るメリットは？

Q. 具体的なライフイベントを予定していたり、現実問題として必要性を感じている人以外でも、ライフプランを作るメリットはありますか？

- A. 基本的には、自分が将来どうなりたいか、何をしたいかを実現するためのものです。たとえば、毎年海外旅行をしたい、月 1 回は友達と贅沢なランチをしたい、定期的に家族で温泉に行きたいなど、それぞれに夢や計画があると思います。では、「それらを実現するために必要なお金をどうしていこうか」ということからプランニングが始まります。大きな意味ではそれもライフプランです。

皆さんは、親、兄弟、子供とお金の話をしたことがありますか？

私が実家の親の経済状態を知ったのは親の介護が始まり施設に入所した時でした。母は父亡き後も小売店を営み、兄夫婦も近くに住んでいたため任せきってました。ところが母が脳梗塞で介護が必要になり、手続きなどのため母の銀行の通帳を見た時初めてそのつましい生活に気づき驚きました。毎日のように会っていた兄にも相談したことも愚痴を言ったこともなかったようです。両親が築いた財産は兄の事業の為に積み込み日々の生活は少ない年金と小さな店の売り上げで賄っていたようです。親兄弟間でもお金の話をするのはためらわれた時代でした。

わが身を顧みても夫と将来のライフプランを話し合ったことがありません。それなりの不安はありますが、お互い健康でさえあればと先延ばしにしてきた感があります。高度成長時代を経験し、年金でどうにか生活できるのではないかと時代錯誤の考え方をまだ拭い去れないようです。今回の取材を通して「いいのか自分？」と問いかける私です。（河口）

編集発行

取手市 市民協働課／下園淳子／河口優子／落合伊佐男／糸井弘

〒302-8585 取手市寺田5139

TEL 0297-74-2141 / FAX 0297-73-5995

Email s-shien@city.toride.ibaraki.jp

ホームページ <http://www.city.toride.ibaraki.jp> 表紙絵 有本 唯

紙面に掲載しきれない記事は市ホームページに拡大版として掲載しています。右記QRコードからアクセスできます→



（「風」53号拡大版）



（過去のバックナンバー）